

学校法人天理大学

平成17年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科の名称および入学定員と学生数の状況

【天理大学】

学 部	学 科	入学定員	収容定員	学生数
人間学部	宗教学科	80	340	334
	人間関係学科	80	300	335
	計	160	640	669
文学部	国文学国語学科	40	160	183
	歴史文化学科	50	190	230
	計	90	350	413
国際文化学部	アジア学科	150	450	509
	ヨーロッパ・アメリカ学科	200	600	591
	日本学科		20	20
	朝鮮学科		40	38
	中国学科		40	65
	タイ学科		20	14
	インドネシア学科		30	24
	英米学科		50	72
	ドイツ学科		30	25
	フランス学科		40	44
	ロシア学科		30	21
	イスパニア学科		40	39
	ブラジル学科		20	26
	計	350	1410	1488
体育学部	体育学科	170	710	909
総 合 計		770	3110	3479

入学定員が斜線の学科は改組により募集停止

【大学院】

研 究 科	入学定員	収容定員	学生数
臨床人間学研究科	8	16	16

【天理高等学校】

課 程		入学定員	収容定員	学生数
全日制課程	普通科	※520	1560	1249
定時制課程	普通科	108	432	381
	介護福祉科	36	144	133
	計	144	576	514
総 合 計		664	2136	1763

※募集人数は 440

【天理中学校】【天理小学校】【天理幼稚園】

		入学定員	収容定員	学生数
天理中学校		200	600	595
天理小学校		※125	750	608
天理幼稚園		100	200	130

※募集人数は若干名

《平成17年5月1日現在》

(2) 役員・教職員の人数

部 門	役員	教員		職員		計
		専任	兼任	専任	兼任	
法人	16			44	18	78
天理大学		159	198	90	18	465
天理図書館		1		45	19	65
おやさと研究所		6		3	2	11
天理参考館				35	3	38
天理高校（全日制）		76	10	38	68	192
天理高校（定時制）		40	1	41	36	118
天理中学校		34	6	6	11	57
天理小学校		28		5	2	35
天理幼稚園		8		2		10
合 計	16	352	215	309	177	1069

《平成18年3月31日現在》

2. 事業の概要

平成17年度は天理大学・天理小学校・天理幼稚園がそれぞれ創立80周年を迎え、時同じくして天理教「教祖120年祭」が平成18年1月に執り行われた節目の年となりました。それだけに留まらず、本年は天理大学を創設された天理教二代真柱中山正善様の生誕百年という年でもあり、大学では意義ある年を慶祝するために国内外から多数の来賓を迎え記念式典を盛大に挙行し、学術シンポジウム、研究フォーラムや国際親善試合等を開催しました。

大学創立80周年記念事業として若江の家を元の形に復元し「創設者記念館」として蘇らせました。また多年の懸案であった「総合体育館」が体育学部キャンパスに竣工しました。数多くの記念事業に関係各位のご尽力により成功裏に実施することができ、新たな塚を目指す門出の年とすることが出来ました。

天理高等学校・天理中学校においては、学習環境の整備のために、空調設備を完備しました。

学校経営を取り巻く環境が年々厳しくなる中で、本法人は建学の精神の発揚に努め今後とも世界に有為な人材の輩出に努力を続けて行きます。

【天理大学】

本学では、「他者への献身」をキーワードに建学の精神に基づいた教育研究の充実に努めていますが、平成17年度は創立80周年にあたることから記念事業・行事の展開を中心に各種事業を行いました。前年度に開設した大学院臨床人間学研究科臨床心理学専攻は、完成年度を迎えて第1期修了生を送り出し順調に教育研究を進めています。トリノ冬季オリンピックのボブスレーに卒業生2名が出場したことも花を添えてくれた1年でした。

《大学改革・中長期計画》

大学全入時代を迎え大学間の競争が激化していますが、本学でも大学改革を積極的に進めています。認証評価については、その申請時期を平成 20 年（2008 年）と決定しました。平成 18 年度から申請に向けた自己点検評価報告書の作成を開始します。教育内容・方法の改善については、FD プロジェクトの答申を受けて、FD 委員会を設置しました。委員会では、FD 研修会を開催し、また 3 年目となる学生による授業評価を春・秋の 2 回実施しました。

理事長諮問機関として設置されていた「十年ひとふし委員会」が 3 月に答申を提出し、平成 18 年度以降その実現に向けて動いていくことになっています。

また、人事委員会が教員資格審査基準の見直しに着手し、研究能力だけでなく教育能力にも配慮した審査基準を検討しています。

《創立 80 周年記念事業・募金》

平成 17 年 4 月 23 日に海外交流協定校の学長や大勢の来賓を迎えて創立 80 周年記念式典を挙行了しました。創設者記念館も、同日、開館の運びとなり、創設者生誕百年記念シンポジウム「宗教と建築：建築と音楽」も開催されました。体育学部キャンパスで進めていた総合体育館の建築は、2 期工事も順調に進み、1 期工事のメインアリーナ、体操場に、温水プール、サブアリーナ、トレーニングルームを新たに備えて 7 月全面竣工しました。平成 18 年 3 月には 80 年小史編纂委員会が「天理大学 80 年の軌跡」を刊行しました。

各学部・センター主催のシンポジウム等も、次のとおり順次開催され、それぞれ報告書としてまとめられる予定です。

人間学部	シンポジウム「日本の精神性と宗教」
文学部	シンポジウム「天理の歴史と文化」
	公開講演会（日本文化財探査学会共催）
国際文化学部	シンポジウム「グローバリゼーションと地域文化」
	ワークショップ「国際文化学部における言語教育」
	「海外文化実習－現状と問題点－」
体育学部	シンポジウム（日本武道学会共催）「武道における宗教性」
総合教育研究センター	レクチャー・パフォーマンス
	「戦争と舞踊・演劇－身振りの力、仮面の力－」
言語教育研究センター	シンポジウム「ことばの翼に乗って」
	外国人留学生日本語スピーチコンテスト
地域文化研究センター	国際シンポジウム「戦争・宗教・平和」

7 月から 12 月にかけて、柔道、硬式野球、ホッケー、ラグビー、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、水泳の 8 競技種目で、米国、フランス、中国、韓国、台湾、インドネシアから対戦大学を招いて国際親善試合を行い、スポーツを通じた交際交流を展開しました。また、11 月にはホームカミングデーを開催し、多くの卒業生を大学に迎えました。こうした事業は、今後の教育研究の発展に活かされていくことになります。

記念事業・行事の展開にあわせて卒業生など各方面にお願いしていた創立 80 周年記念事業募金については、体育館設備の現物寄付を含めると 1 億 6 千万円余の募金総額となり、目標額 2 億円の 8 割を達成し、平成 17 年 12 月で募金期間を終了しました。

《教育研究》

平成 15 年度に学部・学科改組と教育課程の全面的な見直しを行いました。改組 3 年目を迎え、その内容充実に向けています。建学の精神を生かした国際参加プロジェクトも「国際協力実習」として単位を認定する形で継続実施され、実習科目「森に生きる」も実施されています。シラバスについては、デジタル化に向けて検討を行い、平成 18 年度から Campus Square for Web に掲載されます。

教員志望の学生が初等中等教育の現場でボランティア活動を行う実習科目「学校教育支援」は、天理市、奈良市、大和郡山市と協定を結んで単位認定を開始しました。単位互換は、奈良産業大学とも協定を結び、協定校は 6 大学となりました。また、言語教育研究センターが中心となって企画した、国際文化学部 10 言語を使っ

て学生が留学生と交流できるコーナーである「まなび一た」が、学生ホールに設けられました。準資格課程として「矯正・保護課程（仮称）」の設置に向けて委員会を設置して検討を始めました。

研究面では、これまでの在外研究と国内留学の制度を整理統合して特別研究員制度を検討し規程改正を行いました。平成18年度から施行され、教員の研究活動の活性化を目指します。また、大学院が完成年度を迎えたことを受け、研究生規程を制定しました。

《学生支援》

学内売店「テン・フィフティ」において、旅行手配業務を業務委託の形で開始しました。また、学生部や教務部などを利用する学生の利便性向上のため、各事務部の昼休みの時間を変更しました。

《国際交流》

ここ数年、海外の学術交流協定校の開拓を進め、国際文化学部学生の1割以上が1年間の交換留学を行える状況になっていますが、本年度もコスタリカ大学と交流協定を締結するなどその充実に努めました。

また、認定留学についても、米国のマレー州立大学と協議して条件を整えるとともに、学生への情報提供を充実させています。

《入試・広報》

学生募集については、オープンキャンパスを継続して実施し好評を得ています。入試については、本学の入学者選抜の実施に加えて、大学入試センター試験の会場校となりました。また、入試広報についても検討を行い、その充実をはかっています。

Web 学長室を秋に本学ホームページ上に開設し、学長メッセージを発信するとともに、学内外より意見を受け付けています。

《就職支援》

新入生全員に対して入学時に自己発見レポートを課す制度を継続実施して自己の適性の把握を促しています。また、80周年記念事業として開設準備を進めていた職業観を育成するための授業科目として「キャリアデザイン（人生と職業）」が、シンクロナイズドスイミングの井村雅代氏をはじめ多くの卒業生を講師に迎えて本年度から開講されました。

就職相談については、学外の専門のキャリア・アドバイザーによるカウンセリングが2年目を迎えました。また、各種就職ガイダンスや、資格取得支援講座の開講を継続実施していますが、学内企業説明会についてもその充実を図り、会場を学生ホールに移して参加者の増加を促進しています。企業向け広報誌「エスタシオン」も第2号を発刊しています。

《施設・設備》

新しい教育課程に対応するため、国際文化学部演習科目「海外情報交流演習」などでの利用を想定し、多言語対応のパソコン24台を備えたマルチメディア演習室6室およびPC第3教室を設置しました。

体育学部図書室の整備を段階的に進めるため、本年度まずBDS (Book Detection System) を設置しました。

キャンパス・アメニティの向上のため、3号棟（4階からB2階）の女子トイレの全面改修を行いました。また、杣之内キャンパスの駐輪場の改修と照明設備の設置を行いました。

IT関連では、サーバーの増設やネットワークの整備などを継続して行っています。

《地域貢献》

大学独自あるいは各団体と共催で公開講座を例年開催していますが、本年度は、言語教育研究センターが奈良新聞社の協力を得てJR奈良駅前で「天理大学サテライト語学教室」を開始しました。

また、奈良県大学連合を通じて、その副代表校として各種講座の開催などにも貢献しています。

《運営管理、その他》

長年検討を進めてきた「セクシャルハラスメント防止等に関するガイドライン」が制定されました。ヒューマンライツ助成制度による各学部・学科、各部局、学生の自発的な啓発活動も継続して行われています。

教職員の業務遂行を円滑にするため、「学務ガイド」の発行を始めました。なお、外国人留学生の授業料減免、

過年度学生の授業料、および派遣留学生の留学期間中の授業料について見直しを行い、あわせて天理大学奨学金制度も改定しました。

【天理図書館】

本館は貴重な図書を蒐集し、資料保存とともにその利用にも力を入れています。資料の利用では、閲覧サービスや常設展示に加えて、「古義堂文庫展」と「俳諧絵画の美」の展覧会を開催しました。また「教祖 120 年祭記念展」を開催し、1 月の「史籍」、2 月の「古文書と古記録」、3 月の「古辞書」と各テーマに沿って文化財指定品等の特別展示を行いました。それに伴い「展覧会・記念展図録」と天理図書館報「ビブリア」123 号、124 号を発行しました。また書庫の照明装置が経年劣化しているため、東館書庫 1 階から 4 階までの設備を最新器具に取り替えました。

【おやさと研究所】

創立 50 周年記念として始めた公開教学講座を、「信仰の世界」を統一テーマに、4 月～6 月、8 月～11 月の全 7 回、開催しました。天理スポーツギャラリー展の第 5 回目は、「天理水泳、栄光の波動・未来へのウエーブ」と題して展覧会を開催し、シンポジウム「天理水泳進化論―精神の涵養と育成」を開催しました。伝道史料室として「華北における天理教の活動」をテーマにフォーラムを開催しました。更に教祖 120 年祭記念として、天理美術推進会との共催で、「元の理」展を開催し、天理大学キャンパスで野外彫刻展を、道友社ギャラリーにおいては、平面作品展を行いました。また、その関連として教祖 120 年祭記念シンポジウム「『元の理』と美術表現」を開催しました。

出版物としては、定期月刊誌「グローバル天理」、年刊の「Tenri Journal of Religion」、「おやさと研究所年報」、そして「伝道参考シリーズ」17 巻、18 巻、「グローバル新書」第 5 巻などを発行しました。

【天理参考館】

本年度は企画展、トーク・サンコーカン、ワークショップに加え、天理大学創設者生誕百年記念『創設者写真展』（4 月～6 月）、教祖 120 年祭特別展『火のめぐみ』（1 月～）を、秋の天理ギャラリー展では初めて公開講演会を開催し好評を得ました。また考古美術・生活文化資料の収蔵品及び研究用図書の充実を図り、資料の調査研究、整理、修復・保存処理を行いました。出版物としては天理参考館報、特別展・企画展図録、資料案内シリーズを刊行し、広報としてホームページ、マスコミ、ポスター等により館活動の情報の発信を継続して行いました。その他資料貸出、資料写真掲載の協力、博物館実習を実施しました。

【天理高等学校】

快適で効率よく学習できる環境を整える上から、全教室に冷暖房の空調設備を設置し、平成 17 年 9 月から使用開始しました。また、経費節減の上から、第二部定時制の教室および職員室の本校舎への移動を含む全教室の配置の見直しを行い、教室の移動ならびに設備工事を完了しました。

さらに、別館校舎の外壁工事を実施しました。また、4 トントラックを新調し、クラブ活動や学習活動に支障なく活用できるようにしました。

《第一部 全日制》

ここ数年の京都大学をはじめとする国公立大学などへの進学実績や多くの部活動の全国レベルでの活躍を背景に、更に多くの受験生を確保するため、学校案内・ポスターなどの内容を充実させ、参加者へ配布する小物を制作準備するなどして学校説明会を二度実施し、広報活動に積極的に取り組みました。

塾との提携による特設の課外講習や毎年 100 名ほどの生徒が参加して行われる夏期休業中の合宿勉強会を継続するとともに、日常の授業充実のために研修会を数度にわたり開催しました。特に教職員の資質向上を目的として、奈良県立教育研究所や私学教育研究所で行われる研修には多数の教職員が参加しました。

また、ラグビー部の花園出場、ホッケー部の全国選抜大会優勝・インターハイ準優勝、野球部の甲子園出場、吹奏楽部の全国大会ゴールデン賞受賞・全国高等学校大会の連盟会長賞受賞など、例年通りの活躍を続けて校名の発揚の上に大きな役割を果たしている部活動を支援するために、グラウンドの整備や器具の補充などを行いました。同時に、これらの部の中心となる 3 類の英語、数学、国語の授業を学力別に編成し、生徒の学習支援を行いました。

平成 18 年度大学入試は、各類を通して国公立大学に進学する生徒の数が前年度より増加するなど良好な結果を得ました。更に、1・3 類の生徒達の進学実績向上を目指すため、3 年生と 1 年生の校舎を入れ替え、進路指導教室も移転して、教育環境の充実を図りました。それに伴い生徒会室、よふぼくコース職員室なども移転拡充しました。

さらに本校教育の中核であり、大切な信条教育の場となっている学寮の環境整備のために、北寮、東寮、火水風寮、白球寮などの屋根や水周りの改修や塗装などを行いました。これらの寮生達の落ち着いた生活ぶりが学校全体の雰囲気良くし、朝の参拝からの学校生活全般に良い影響を及ぼしています。

《第二部 定時制》

長年にわたり導入している選択制とグレード制により、生徒の学習意欲が向上し、上級学校への進学も増加しています。課外活動においては、全国定通制体育大会での好成績や、雅楽部が全国高等学校総合文化祭での演奏が評価され、文化庁の海外派遣事業として海外公演を実施するなど、素晴らしい結果を残しています。

生徒の福利厚生を考え、本校舎内の教室から近い所に保健室を設置し、また、平成 18 年度からの本校舎への普通科全学年の教室移動に備えて、校舎の改修工事を行いました。

【天理中学校】

特殊塗装による体育館・武道場の遮熱工事が完了しました。各教室の空調設備に加え出入り口扉のアルミ化工事、体育館階下部室の全面改修など、教育環境が大幅に改善されました。環境整備だけに留まらず、教育内容の充実に検討を加えました。

【天理小学校】

11 月 27 日に創立 80 周年記念式典を挙行し、記念事業として、北庭にビオトープを造設しました。また、北庭での児童の安全を確保するためにセコム監視カメラを設置しました。老朽化していた校内放送用設備の改修工事も行いました。

5 月 27 日には第 47 回西日本私立小学校教員研修会を誘致開催しました。西日本各地から集った 850 名の小学校教員に、研修会に加え神殿の案内や図書館・参考館等の諸施設の紹介を行いました。

【天理幼稚園】

11 月 5 日に創立 80 周年記念式典を、多くの来賓・保護者・卒業生や関係各位の出席のもとに盛大につとめ終えることが出来ました。また、記念運動会、記念作品展等の記念事業を実施しました。「幼少の頃より信仰をうつし、親神様のよふぼくを育成する」という創立の精神を柱とした 80 年の歴史を重く受けとめ、次の時代に向かって新たな一歩を踏み出す契機となりました。

3. 財務の概要

(1) 平成 17 年度決算の概要

平成 17 年度決算について、予算と対比してその概要を報告します。

○ 資金収支計算

(単位：千円)

●収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,556,269	3,555,524	745
手数料収入	122,995	106,173	16,822
寄付金収入	3,415,500	3,532,353	△ 116,853
補助金収入	1,432,500	1,267,729	164,771
資産運用収入	30,935	35,144	△ 4,209

資産売却収入	0	50	△ 50
雑収入	140, 901	162, 821	△ 21, 920
前受金収入	619, 260	675, 032	△ 55, 772
その他の収入	193, 750	243, 535	△ 49, 785
資金収入調整勘定	△ 734, 510	△ 819, 066	84, 556
前年度繰越支払資金	5, 584, 300	6, 532, 203	△ 947, 903
収入の部合計	14, 361, 900	15, 291, 498	△ 929, 598

●支出の部

科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費支出	6, 253, 141	6, 267, 450	△ 14, 309
教育研究経費支出	1, 424, 039	1, 277, 440	146, 599
管理経費支出	441, 959	355, 788	86, 171
借入金等利息支出	13, 783	13, 782	1
借入金等返済支出	100, 000	100, 000	0
施設関係支出	1, 124, 233	1, 182, 571	△ 58, 338
設備関係支出	325, 165	313, 675	11, 490
資産運用支出	14, 340	16, 470	△ 2, 130
その他の支出	848, 000	1, 020, 922	△ 172, 922
予備費	110, 000		110, 000
資金支出調整勘定	△ 732, 600	△ 863, 769	131, 169
次年度繰越支払資金	4, 439, 840	5, 607, 168	△ 1, 167, 328
支出の部合計	14, 361, 900	15, 291, 498	△ 929, 598

収入の部では学生生徒等納付金収入がほぼ予算額どおりの収入となりました。手数料収入は見込みを下回り、予算比では13.68%の減額となっています。寄付金収入は（宗）天理教より34億円、天理大学創立80周年記念事業寄付金が2869万円、学寮会計を補助活動事業として表示することになったことにより学寮から寄付金として受け入れた資金が1億296万円あり、1億4660万円の収入超過となりました。補助金収入は私立大学経常費補助金の見込より配点区分が下回ったこと等により予算比11.50%の減額となっています。雑収入は退職者の増により私立大学退職金財団等の交付金が増えたため収入超過となりました。当年度収入合計は0.21%減の87億5930万円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では152億9150万円となりました。

支出の部では人員の効率化の推進により退職金以外の人件費は前年度より0.81%減、金額にして4734万円の減少となりました。退職金は見込みを上回り、支出超過となっています。施設設備の整備・改修としての主な支出は、1. 大学体育学部総合体育館建設及び周辺整備、2. 大学ゴミ集積場構築、3. 大学3号棟トイレ改修、4. 大学柚之内ふるさと寮寮生室改修、5. 図書館東館照明設備更新、6. 高校エアコン設置、7. 高校特別教室改修、8. 高校トラック購入、9. 中学校エアコン設置、10. 中学校体育館改修、11. 中学校教室出入口改修、12. 小学校自然観察池構築等です。また、学校施設及び寄宿寮施設のアスベスト飛散防止工事を実施しました。日本私立学校振興・共済事業団からの借入金にかかる返済支出は予算通り1億円、同利息分が1378万円です。資金支出は合計で152億9150万円となり、そのうち次年度繰越支払資金は56億717万円となりました。

○ 消費収支計算

(単位：千円)

●消費収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3, 556, 269	3, 555, 524	745
手数料	122, 995	106, 173	16, 822
寄付金	3, 511, 200	3, 623, 874	△ 112, 674
補助金	1, 432, 500	1, 267, 729	164, 771
資産運用収入	30, 935	35, 144	△ 4, 208
資産売却差額	0	50	△ 50
雑収入	140, 901	162, 821	△ 21, 920
帰属収入合計	8, 794, 800	8, 751, 315	43, 485
基本金組入額合計	△ 1, 249, 280	△ 1, 499, 539	250, 259
消費収入の部合計	7, 545, 520	7, 251, 776	293, 744

●消費支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費	6, 265, 141	6, 186, 258	78, 883
教育研究経費	2, 126, 409	2, 052, 310	74, 099
管理経費	556, 509	402, 078	154, 431
借入金等利息	13, 783	13, 782	1
資産処分差額	14, 200	63, 126	△ 48, 925
予備費	110, 000		110, 000
消費支出の部合計	9, 086, 042	8, 717, 554	368, 488

当年度消費支出超過額	1, 540, 522	1, 465, 778	
前年度繰越消費支出超過額	4, 077, 556	4, 077, 556	
翌年度繰越消費支出超過額	5, 618, 078	5, 543, 334	

《前記の資金収支と共通の科目があるので、消費収支特有のものについて説明します。》

消費収入の部では、帰属収入合計が予算比 0.49%減の 8 億 7 千 5 百 3 2 万円（前年度比では 6.14%〈5 億 7 千 2 百 3 万円〉の減）となりました。基本金組入額合計が、予算比 20.03%増の 1 億 4 千 9 百 5 万 4 千 円（前年度比では 100.26%〈7 億 5 千 0 百 7 万 5 千 円〉の増）となり、消費収入合計は予算比 3.89%減の 7 億 2 千 5 百 1 万 7 千 8 百 円（前年度比では 15.43%〈1 億 3 千 2 百 2 万 9 千 8 百 円〉の減）となりました。主なものは、現物寄付として大学の同窓会組織であるふるさと会より大学総合体育館の体操場ピット内設備（建物、備品を合わせて 7 億 9 千 1 万 8 千 円）受贈等があり、寄付金は予算比 3.21%増の 3 億 6 千 2 百 3 万 8 千 7 百 円（前年度比では 8.00%〈3 億 1 千 5 百 0 万 4 千 円〉の減）となりました。

消費支出の部では、人件費に退職給与引当金繰入額 3 億 9 千 0 百 1 万 9 千 円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は 8 千 1 百 1 万 9 千 円となっています。教育研究経費には 7 億 1 千 7 百 5 万 7 千 円、管理経費には 3 億 4 千 2 万 8 千 円の減価償却費を含み、消費支出の部合計では予算比 4.06%減の 8 億 7 千 1 万 7 千 5 百 5 千 円（前年度比では 0.05%〈4 千 4 百 5 千 円〉の減）となりました。

当年度消費収支差額は 1 億 4 千 6 百 5 万 7 千 8 百 円の消費支出超過額（前年度は 1 億 4 千 7 百 2 万 4 千 円の消費支出超過額）となり、前年度繰越消費支出超過額を加えた翌年度繰越消費支出超過額は 5 億 5 千 4 百 3 万 3 千 3 百 円となりました。

○ 貸借対照表

(単位：千円)

●資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	28,548,473	27,834,277	714,196
有形固定資産	26,564,017	25,866,291	697,726
その他の固定資産	1,984,456	1,967,986	16,470
流動資産	5,755,806	6,778,558	△ 1,022,752
資産の部合計	34,304,279	34,612,835	△ 308,556

●負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	2,105,355	2,286,547	△ 181,192
流動負債	1,675,522	1,836,648	△ 161,126
負債の部合計	3,780,877	4,123,195	△ 342,318

●基本金の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	35,278,635	33,779,173	1,499,462
第3号基本金	138,101	138,023	78
第4号基本金	650,000	650,000	0
基本金の部合計	36,066,736	34,567,196	1,499,540

●消費収支差額の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	△ 5,543,334	△ 4,077,556	△ 1,465,778
消費収支差額の部合計	△ 5,543,334	△ 4,077,556	△ 1,465,778
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	34,304,279	34,612,835	△ 308,556

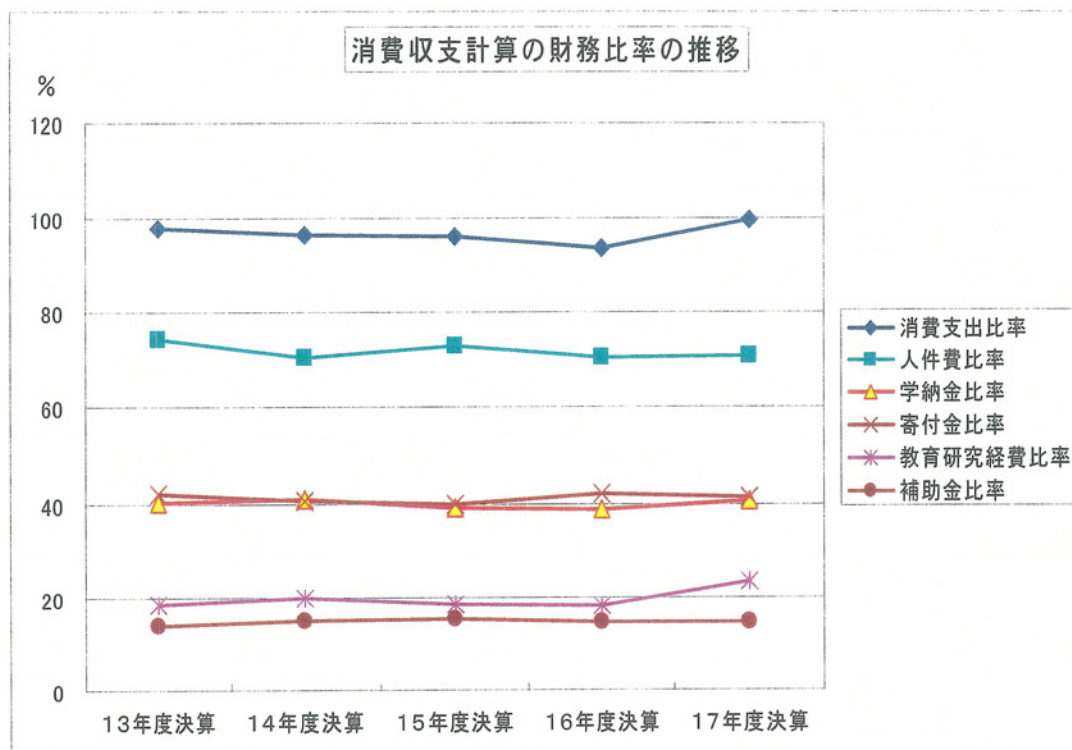
《貸借対照表は、平成18年3月31日現在の資産、負債、基本金等の状況を前年度末と対比させて表示しています。》

資産の部では有形固定資産が施設設備の充実及び受贈等により前年度末から6億9772万円増、その他の固定資産は退職給与引当資産等の増により1647万円の増、流動資産が現金預金の減等により10億2275万円のとなり、差引3億856万円減の343億428万円となりました。負債の部では借入金、退職給与引当金、未払金、前受金のそれぞれが減少し、合計3億4232万円減の37億8088万円となっています。基本金の部では14億9946万円の基本金組み入れを行いましたので、360億6674万円となりました。

消費収支差額の部合計は、消費収支計算の翌年度消費支出超過額と同額の55億4333万円の消費支出超過となっています。資産の部合計から負債の部合計を差し引いた正味財産は305億2340万円となりました。

(2) 過去5年間の推移

財務状況について、過去5年間の財務比率によりその概要を報告します。



消費収支関係比率

(単位：％)

比率項目	1 3 年度決算	1 4 年度決算	1 5 年度決算	1 6 年度決算	1 7 年度決算
消費支出比率	97. 9	96. 6	96. 1	93. 5	99. 6
人件費比率	74. 4	70. 4	72. 8	70. 4	70. 7
学納金比率	40. 2	40. 9	39. 3	38. 9	40. 6
寄付金比率	42. 1	40. 7	39. 9	42. 2	41. 4
教育研究経費比率	18. 5	20. 0	18. 4	18. 2	23. 5
補助金比率	13. 8	15. 0	15. 4	14. 6	14. 5

《上記比率は消費収支の各科目の帰属収入（法人の負債とならない収入）に対する割合です。》

16年度までの消費支出比率は現物寄付金等を含めた帰属収入の増により減少傾向でしたが、17年度では帰属収入の減により上がっています。人件費比率は人事計画の効果により徐々に下がっていますが、17年度決算では帰属収入の減により若干上昇し、70.7%となりました。寄付金及び補助金が16年度より減額し、それぞれ比率が下がったことから、学納金比率が上昇しています。教育研究経費比率は20%弱の横ばい傾向でしたが、17年度より補助活動事業に係る減価償却額の配分を見直したことから教育研究経費が増加し過年度の比率と比較して大きく上昇しました。